



## 6 検討した具体的な対策集

カラス対策プロジェクトチームでは、カラス問題とその対策を考えるにあたり、様々な意見・アイデアを出し合いました。これらの実現可能性・費用対効果等について議論を重ねました。

ここでは、検討の過程で出たアイデアを今後のカラス対策についての参考とするため一覧表にしました。

なお、評価については、実現可能性についてプロジェクトチームが独自に判断したもので、  
、  
、  
、  
- の順に実現性の高さを示しています。

	分野	アイデアの概要	検討事項など	評価
1	捕獲 (餌付け)	大規模なおりの中にエサを置き、カラスが引き寄せられたところを、落とし網などで一網打尽にする。	餌付けした群を一網打尽にして捕獲する事例があり、条件次第では極めて有効。設置時期、場所などは検討を要する。	
2	捕獲 (しくみ)	カラス捕獲の効率をあげるため、生ごみとの接触を断つ。具体的には、カラスよけネットを配布し、ごみの集積所で使用する。公園のごみは係員が巡回し、回収する。	エサ不足時に、捕獲と同時に実施することにより効果大	
3	捕獲後の活用	捕獲個体について科学的なデータをとる。(例)計測(体重、翼長、全長など)、性別、年齢、胃内容物(食べ物)、病原体(体表ダニ等外部寄生虫、糞便細菌・ウイルス等)	貴重な資料として最大限活用すべき	
4	増殖阻害	カラスの巣の材料となるクリーニングの針金ハンガーをリサイクルすることにより、カラスの巣材を削減させる。	資源活用、リサイクルの面から実施を推進すべき	
5	ごみ減量 (制度・ルール)	繁華街を中心としたごみの夜間・早朝収集の拡大・事業所ごとに時間を合わせたごみ収集の義務化	区市町村・事業者との調整が必要	
6	ごみ減量 (制度・ルール)	事業系ごみの戸別時間別収集を義務付け、ごみの放置を防ぐ。	区市町村・事業者との調整が必要	
7	ごみ減量 (制度・ルール)	家庭系ごみの有料化を図る。有料袋利用又は総重量制で行う。	区市町村・事業者との調整が必要	
8	ごみ減量 (努力)	食材の使いきりを推進して必要な分だけ購入するという意識を浸透させる。	都民に広く呼びかけていく必要がある。	
9	ごみ減量 (努力)	残り物を使った料理や生ごみの出にくい調理方法の開発と普及	都民に広く呼びかけていく必要がある。	

	分野	アイデアの概要	検討事項など	評価
10	ごみ収集 (協働)	カラスよけネットの使用、ごみ出しルールについての普及・啓発を目的とした、パトロール要員(ごみポリス)の配置	区市町村との調整が必要	
11	ごみ収集 (協働)	カラス対策キャンペーン、ごみ出しマナー強化月間、マスコットキャラクターの決定とPR、マスコミを利用した広報活動	関係者と協力しながら徹底していく。	
12	ごみ収集 (場所・設備・用具)	おもり付きカラスよけネットや折りたたみ式ごみボックスの設置	区市町村との調整が必要	
13	ごみ収集 (場所・設備・用具)	ふた付きポリバケツ、生ごみの二重包装で生ごみをカラスにつつかれないようにする。	関係者が協力して都民に徹底を呼びかけていく。	
14	ごみ収集 (場所・設備・用具)	カラス模型・カラス返し・カラスよけごみ袋等、ごみ集積所でのカラスよけグッズの普及。	効果の実証が必要。慣れにより、効果が薄れやすいものも多い。	
15	ごみ収集 (場所・設備・用具)	地域の実情に応じて、ごみ集積所をやめ、戸別収集にする。	区市町村との調整が必要	
16	カラス対策 PR	カラス被害マップの作成・カラス被害事例の収集・アピール	区市町村との調整が必要	
17	カラス対策 PR	カラス対策強化月間・キャンペーン	関係者が協力して都民に徹底を呼びかけていく。	
18	カラス対策 の実施方法	他県や区市町村と連携して、広域的なカラス対策を検討し、首都圏全体での対策を推進していく。	内容・方法等を検討していく。	
19	カラス対策 の実施方法	カラスエサやりの禁止、カラス給餌禁止条例・宣言等の早期制定	実施に向けて検討していく。	
20	カラス対策 の実施方法	インターネット討論「カラス被害NO!作戦」の開始	内容・方法等を検討していく。	
21	カラス対策 の実施方法	「カラス対策都民広場ML(メーリングリスト)」の運営	内容・方法等を検討していく。	
22	教育・啓発	学校教育の総合的学習の時間などで、カラスやごみ問題など環境学習を進めるためのカリキュラムの作成	内容・方法等を検討していく。	
23	産業振興	産業交流展など、カラスよけグッズやカラス駆除事業者を紹介する場を創設する。	都民全体で取り組むためには効果的である。	

	分野	アイデアの概要	検討事項など	評価
24	産業振興	素早い情報提供のための企業情報リンクサイト（カラス関連グッズ等）の開設	内容等を精査した上で実施する。	
25	捕獲後の活用	捕獲したカラスを飼育し、寿命・繁殖年齢等を調査する。（動物園、大学、研究機関等）	調査は実施可能だが、捕獲した個体すべてを飼育することはできない。	
26	生活妨害	失業対策の一環としての雇用や、ボランティアの募集等により、エサ場でカラスを追い払う。	費用・人員の面で問題があるが実施可能。効果を上げるためには規模等の検討が必要	
27	ごみ減量（制度・ルール）	家庭用生ごみ処理機普及のために補助金交付制度を確立。一定規模の事業者に対する設置の義務付け	区市町村・事業者との調整が必要	
28	ごみ減量（制度・ルール）	事業系ごみについては、料金制度を見直し、一定量以上の排出には割増料金を導入する。	区市町村・事業者との調整が必要	
29	ごみ減量（制度・ルール）	優良なごみ収集方法等考案者に対する表彰・報奨金	区市町村との調整が必要	
30	ごみ減量（努力）	生ごみを分別収集して資源化する。	都民に広く呼びかけるとともに、資源化の方法等を検討する必要がある。	
31	ごみ収集（場所・設備・用具）	ごみ袋の材質や色調を、カラスに破られないものや、中が見えないもの、カラスの嫌いなものなどに変える。	区市町村との調整や、関係業界への働きかけが必要	
32	カラス対策PR	カラス対策のための意見交換の場を設ける。	実施方法等について検討する必要がある。	
33	カラス対策PR	わかりやすく印象に残るTV-CMを放映する。	経費や内容、効果等を検討する必要がある。	
34	捕獲（制度）	狩猟、捕獲に関する許可要件の緩和	法改正等が必要	
35	捕獲（しくみ）	奨励金を導入して都民の捕獲を奨励する。	奨励金の額が効果に影響する可能性あり。捕獲の手續や捕獲技術を検討する必要がある。	
36	捕獲（ねぐら）	界面活性剤を、冬季の厳寒時にねぐらに噴霧。飛翔力低下と体温低下を引き起こして、捕獲する。	化学物質噴霧における環境への影響が不明。カラス以外の生物に影響が及ぶ恐れがある。	
37	捕獲後の活用	はく製や骨格標本として学校や研究機関等で活用してもらう。	作成には手間とコストがかかる。研究材料としての提供は可能性あり	

	分野	アイデアの概要	検討事項など	評価
38	捕獲後の活用	死骸をカラスよけにする。	防除用具としての効果が薄いという意見もあるが、畑やごみ集積所などで利用されている例がある。それ以外はニーズが不明。手間、コストがかかる。	
39	生活妨害	超音波、磁気、音声、光線、花火等で、カラスに嫌がらせをして追い払う。	効果について実証していく必要がある。慣れ、周辺迷惑、経費等も検討する必要がある。	
40	生活妨害	大規模ねぐらとなっている施設の夜間利用を可能にしてカラスの安眠を妨害する。	施設管理者との調整が必要	
41	生活妨害	ピアノ線やテグスを樹林に張り巡らせカラスの飛来を阻止する。	小規模の樹林なら可能。大規模なねぐらでは、費用や仕掛けが大きくなり、導入には検討を要する。	
42	生活妨害	犬を訓練しごみ集積所でカラスを追い払わせる。サルを訓練し巣を除去させる。	住民等に迷惑がかからないよう検討する必要がある。	
43	生活妨害	都市環境に、カラスの天敵となる猛禽類(オオタカ、フクロウ、トビなど)を放し、生息させる。ドバトの駆除にも有効。	生息可能な環境の確保が難しい。野鳥等の生態系への影響も考慮しなければならない。	
44	生活妨害	ねぐらとなる樹林のせん定、樹種転換。	大きな樹林では、景観上、生態系上の課題が多い。都心の貴重な成熟した樹林を転換することは、世論の動向や技術的検討も必要	
45	ごみ減量 (制度・ルール)	下水道を経由してごみを処分場まで輸送できるディスポーザーを設置する補助金の交付制度をつくる。あわせて、処理能力のある下水道管・汚水処理施設を完備する。	莫大な費用と時間がかかる。下水処理との関係も検討が必要である。	
46	ごみ減量 (制度・ルール)	食品リサイクル法を小規模飲食店にも適用させる。	法改正等が必要	
47	ごみ減量 (制度・ルール)	バーコードを活用したごみ袋を導入し、排出者の責任を明確化する。	区市町村との調整が必要	
48	ごみ減量 (制度・ルール)	不適切排出者の罰則を設ける。	区市町村との調整が必要	
49	ごみ減量 (制度・ルール)	一般ごみの収集回数の削減により、ごみをさらす時間を減らす。	区市町村との調整が必要	
50	ごみ収集 (場所・設備・用具)	道路以外の場所に堅牢なごみ集積所を新たに設置し、自治会等に管理を委託する。	新たな場所の確保が困難。区市町村との調整が必要	

	分野	アイデアの概要	検討事項など	評価
51	その他	啓発グッズを販売した利益で基金を創設する。	実施主体、内容等を検討する必要がある。	
52	その他	カラスが電線に止まりにくくするための工夫を施す。	長期的な計画の中での検討が必要。関係者との調整も必要	
53	捕獲 (餌付け)	薬物を混入したエサを与え計画的に大量捕獲する。	他生物への影響が懸念される。	-
54	捕獲 (しくみ)	カラス捕獲箱を設置するための用地を提供してくれた都民に対して、報奨金を支払う制度を創設する。	捕獲箱設置は都有地優先で実施する。報奨金制度自体に疑義あり。	-
55	捕獲 (ねぐら)	カラスのねぐらの樹林に電線を仕掛け、木にとまったカラスを感電させる。	意図的にショートさせる仕組みとなり、危険性が高い。電気料金もかさむ。カラス以外の不特定多数の鳥獣が巻き込まれる恐れがある。	-
56	捕獲 (その他)	銃砲などの道具を使って打ち落とす。	銃の使用が認められる地域は限られている。	-
57	捕獲 (その他)	鳥もち、粘着シートなどで捕獲する。	ほこり等がつくと効果激減。維持の手間が大変。カラス以外の生物が捕獲される可能性もある。	-
58	去勢・不妊	放射線を照射し、生殖能力を低下させる。	放射線の管理方法を検討しなければならない。	-
59	去勢・不妊	不妊措置を施し、繁殖を抑制する。(去勢手術、インプラント、殺精剤など)	コストと時間がかかる。他生物への影響が懸念される。	-
60	捕獲後の活用	生ごみを食べさせて飼育し、糞は肥料、あるいは発酵発電として活用する。	収容所建設が必要となり、場所の確保が難しい。衛生面できめ細かな管理が求められる。発酵発電はカラス糞で可能か検証が必要	-
61	捕獲後の活用	天敵やねずみの被害が多い自然地向分散させ放鳥する。	移動させるための費用が莫大。放鳥地の鳥害増加、生態系攪乱の可能性もある。	-
62	捕獲後の活用	雌雄を分離して離島に放す。	雌雄の判別や候補場所の選出が困難、離島における生態系への影響が不明、搬送費が甚大	-
63	捕獲後の活用	捕獲したカラスを飼い慣らし、バードショー等で利用する。	知能的には可能であるが、実証は必要。ただし、すべてを活用することは困難	-
64	捕獲後の活用	動物園で肉食獣のエサとする。	病原体の保有状況が不明であり、エサには適さない。	-
65	捕獲後の活用	羽等の利用(羽毛布団、羽ペン等)	ニーズが不明	-

	分野	アイデアの概要	検討事項など	評価
66	捕獲後の活用	食用としている地域があれば移送する。	ニーズが不明、コスト面で問題あり。	-
67	捕獲後の活用	漢方薬の原料としてカラスを使っていくといわれる国に輸出する。	需要が不明である。	-
68	生活妨害	カラスの学習能力を利用して、ごみ集積所からの採食を断念させる。 例：繁華街にある大画面テレビなどにカラスがごみ集積所のエサを食べて嘔吐している画像を映し出す。それをみたカラスがエサ場からの採食を断念する。	映像からの学習効果を研究する必要がある。映像を見せられる場所等の制約がある。	-
69	生活妨害	カラスの好きな水飲み場や水浴びのできる場所を一掃して、カラスの生息環境を悪化させる。	河川や公園で水を一掃できるか不明	-
70	増殖阻害	カラスの巣の卵を擬似卵と取り替えて抱かせ、産卵してもふ化しないと思いこませる。	コスト、速効性の検討が必要	-
71	ごみ減量 (制度・ルール)	時間帯や回収方法を選択できるようにする。戸別回収やふた付きポリバケツ利用などの場合は、ポイント制度をとりいれて特典を設ける。	区市町村・事業者との調整が必要	-
72	ごみ収集 (場所・設備・用具)	ごみ集積所は地下を利用した置き場に変更する。	技術的、法的、経費的課題を検討する必要がある。	-
73	ごみ収集 (場所・設備・用具)	エアシューターによるごみ搬送により、カラスがエサを得る機会を無くす。	莫大な費用と時間がかかる。 長期的都市開発の際に検討する。	-